

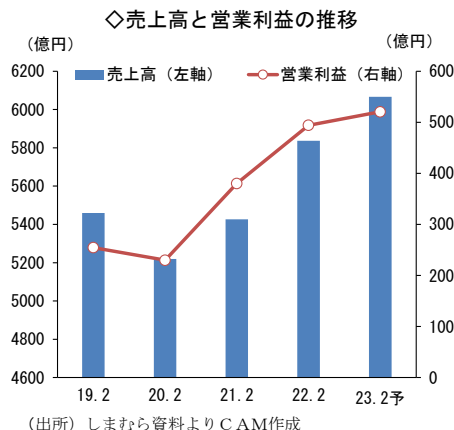
企業ニュース しまむら

(東証プライム: 8227) <https://www.shimamura.gr.jp/>

作成者: 高見澤晶子

ファッションセンターしまむらを全国展開

低価格なデイリーファッションを取り扱う「ファッションセンターしまむら」、カジュアルファッションの「アベイル」、ベビー・子供用品の「バースデイ」など、衣料品専門店を全国展開している。22. 2期末のグループ店舗数は2, 204店、うち、主力のしまむら業態は1, 421店で売上高構成比は75%。自社開発ブランドやサプライヤーとの共同開発ブランドの展開強化、売れ筋商品の短期追加生産を活用した在庫の適正化とそれに伴う値引き販売抑制といった取り組みが寄与し、収益性の改善が継続している。今回、2021~2023年度中期経営計画の数値目標を上方修正、国内売上高は当初計画比200億円増の6, 150億円、国内営業利益は同40億円増額の533億円とした。



22. 2期業績は過去最高を更新

22. 2期の連結業績は、売上高が5, 836億円、前期比8%増、営業利益494億円、同30%増。会社計画に対して売上高で131億円、営業利益で37億円上振れ、過去最高を更新した。しまむら業態の既存店売上高は前期比7%増、その他の業態でも継続して取り組む商品力や販促の強化が寄与した。利益面では、短期追加生産の活用による機動的な仕入れと在庫コントロールが寄与し粗利益率が改善、デジタルの活用による店舗作業や販促の効率化などにより販管費の抑制も進んだ。

23. 2期の通期会社計画は、売上高が6, 066億円、前期比4%増、営業利益が521億円、同5%増。出店は35店、閉店は16店を予定、立地に合わせてしまむら以外の業態の出店も進める。今期は郊外立地を基本としつつ、都市部への出店も強化する方針。しまむら業態の既存店売上高は同2. 9%増を見込む。3月は前年同月比2. 9%増と計画線でスタート、客数の増加基調を維持できるか注目したい。粗利益率の前提は前期比0. 1ポイント改善の34. 2%、会社は在庫コントロールにより値引き販売削減の余地がまだあるとみており、粗利益率の改善に意欲を見せている。

[株価動向・投資判断]

各種施策により、収益性の改善が継続している点を評価したい。今後、顧客情報を活用した商品開発や個別販促による集客力のさらなる向上に期待したい。

<8227 しまむら 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21. 2	542, 608 (4)	38, 026 (65)	39, 404 (65)	26, 163 (99)	711. 9	220. 00
22. 2	583, 618 (8)	49, 420 (30)	50, 567 (28)	35, 428 (35)	964. 0	240. 00
23. 2 予	606, 608 (4)	52, 058 (5)	52, 998 (5)	37, 197 (5)	1, 012. 2	250. 00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2022/4/8)	11, 810 円
年初来高値 (高値日)	11, 850 円 (22/4/5)
同 安値 (安値日)	9, 450 円 (22/1/7)
予想 P E R (23. 2 予)	11. 7 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	11, 183. 0 円
P B R	1. 06 倍
予想配当利回り	2. 12 %
(1株当たり配当金年250. 00円)	
R O E (22. 2)	8. 9 %
発行済み株式数	3, 691 万株